

発展支える都市開発事業



北川支店長（左端）を囲み、シンガポールでのビジネスについて質問

高校生8人がまず訪れたのは、ビジネスや観光の中心地、マリナ地区にオフィスを構える三菱商事シンガポール支店だ。北川支店長から、シンガポールの特徴や三菱商事の活動について説明を受けた後、高校生からは早速、「三菱商事の現地での知名度は」「ビジネスでの競争相手は」などの質問が出た。

その後、世界最大の観覧車「シンガポール・フライヤー」に移動した。シンガポール政府が観光誘致の目玉にしようと建設を決め、三菱商事と竹中工務店が施工した。今年3月1日に運行を始めたばかりだ。

観覧車の高さはビルの42階に



参加した高校生リポーター

前列左から
森 美咲さん(津田女子高校3年)
青山 彩香さん(水戸第一高校1年)
矢野 瑞季さん(不動岡高校1年)
田山 友紀さん(東北高松商業高校1年)

後列左から
椎名 剛士さん(西川東高校2年)
後藤 和隆さん(聖光学院高校1年)
前田 翼さん(金沢東高校1年)
高沢 幸広さん(聖光学院高校2年)

以上のメンバーが多数の応募者から選ばれました(学年は当時)

日本の高校生8人が今年3月、国際的な金融・物流拠点として発展を続けるシンガポールを訪れた。三菱商事が現地で展開するビジネスの最前線取材のためだ。世界最大の観覧車やゴミ焼却プラントを見学し、現地の高校生との交流を深めるなど、充実した4泊5日を経験した。



相当する165層。定員28人の円筒形ゴンドラが30分かけてゆっくりと一周し、窓の外にオフィス街の高層ビル群などの景観を楽しめる。来年の開催を目指すサジノや、今秋開催のドレーズ施設の建設現場も眼下に一望でき、埼玉県立不動岡高校1

高校生は、ゴミ収集トラックが行き交う施設の入り口や、巨大なコンテナを積み出す様子を見学した。シンガポールの都市開発プロジェクトについて、三菱商事の社員から説明を受けた。

三菱商事の支店を訪問 観光・インフラ整備に貢献

午後からは、西部のジュロン地区にある「トウラス南・ゴミ焼却プラント」に向かった。1日4320tという世界最大のゴミ処理能力を誇り、焼却炉の熱を利用して発電も行われている。三菱商事は、三菱重工とともにプラント建設にかかわった。

年の矢野瑞季さん(16)は「シンガポールが国を挙げて観光に力を入れていることが肌で感じられる」と興味をひかれていた。また、茨城県立水戸第一高校1年の青山彩香さん(16)は「シンガポールの新たなシンボルに、日本の企業がかかわっているのは誇らしい」と、うれしげに話した。

宮崎さん(手前右)の身ぶりや交えた熱心な説明に高校生も真剣



●学生の実験で図書館へ広さと蔵書数にびっくり
●最後に仲良く記念撮影

シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局(PSA)の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君(16)は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールの貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。

港を後にした8人は、ラッフルズ・ジュニア・カレッジの高校生との交流会に臨んだ。相手の高校生は日本語を勉強中で、日本語も上手に話す。このうち2人が日本語でスピーチを披露すると、日本の高校生たちは感心して聞き入った。その後、シンガポールの高校生に案内されて校舎内を見て回り、英語と日本語をまじえながら互いに

世界に誇る貿易港を見学 現地同世代と心の交流

の学生生活について話を弾ませた。最後には全員が輪になってゲームを楽しんだ。

埼玉県立川越女子高校3年の森美咲さん(16)は「言葉が通じることが不安だったが、心と心で交流できた気がする」と笑顔を見せ、慶応義塾湘南藤沢高等

部1年の田山友紀さん(16)は「現地の高校生が一生懸命、日本について学ぼうとしている様子に印象的だった」と、シンガポールの同世代から刺激を受けた様子だった。2時間の交流会はあっという間に過ぎ、高校生たちはほいほいと別れを惜しんでいた。

夜には、トラムで動物園を回る「ナイトサファリ」を楽しんだ。

快適な交通環境を整備 人々の喜び「最高の仕事」

4日目は、まず公共鉄道「MRT」でマンジョンが立ち並ぶ郊外のニュータウンに向かい、ニュータウンの間を走る無人の小型鉄道「LRT」にも乗車した。国土の狭いシンガポールでは多くの人が郊外のニュータウンに住んでおり、MRT、LRTとも人々の生活に欠かせない存在だ。三菱商事はMRTの変電設備の納入などにかかわったほか、累計で1000万枚以上のカードを流通しているICカード乗車券「e-zink」カード

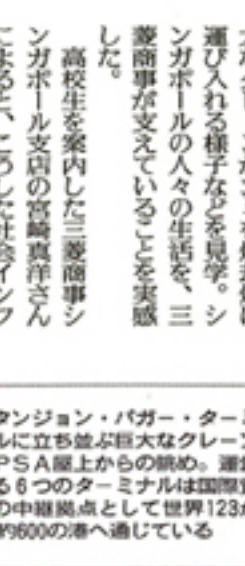
の輸入元になっている。

午後からは、南島の美しい景色が広がる教会や、インド人街のヒンズー教寺院やチャイナ

体験ツアーを終え、石川県立金沢東高校1年の前田翼君(16)は「三菱商事がシンガポールという国と一体になって、人々のために仕事に取り組んでいるように思う。自分も相手も喜ぶのが最高の仕事だ」と話した。

これまでに「ブルネイLNGプロジェクト」「タイ自動車プロジェクト」「中国繊維・物流プロジェクト」「オーストラリア石炭採掘プロジェクト」が

タンジョン・バガー・ターミナルに立ち並ぶ巨大なコンテナ
●PSA屋上からの眺め。運営する6つのターミナルは国際貿易の中継拠点として世界123か国約600の港へ通じている



海外プロジェクト探検隊

三菱商事の海外事業や現地の文化を体験しよう

このプロジェクトは、一般から公募した高校生をリポーターとして海外に派遣し、現地で体験した内容をヨミウリ・オンラインで発表してもらうシリーズ企画。

現地では、三菱商事が海外で展開しているプロジェクトの現場を訪れるほか、現地の学生との国際交流や生活文化など、さまざまなプログラムを体験。未来の日本を担う高校生たちに、総合社の仕事や異文化への理解を促し、今後社会で活躍するための糧としてもらうことを目指している。

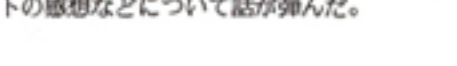
これまでに「ブルネイLNGプロジェクト」「タイ自動車プロジェクト」「中国繊維・物流プロジェクト」「オーストラリア石炭採掘プロジェクト」が

ナダ製紙原料プロジェクト」の「探検隊」を実施しており、今回の「シンガポール都市開発プロジェクト」は6回目となる。

次回は、夏休みに実施する予定。詳細が決定次第、読売新聞の紙面で高校生リポーターを募集する。



第4回(2007年1月)オーストラリア探検隊



第5回(2007年8月)カナダ探検隊

高校生リポーターWEB新聞 ヨミウリ・オンラインで公開中

高校生リポーターの現地取材模様や感想を「WEB新聞」に掲載しています。皆さんからのご意見、ご感想も受け付けています。ぜひアクセスしてください。

<http://www.yomiuri.co.jp/adv/tanken/>

■体験ツアー報告会

5月10日、「シンガポール都市開発プロジェクト」体験ツアーの報告会が開催された。ツアーに参加した高校生たちは、体験したプログラムのツアーレポートを作成。シンガポールで展開する三菱商事のプロジェクトを中心に、現地で学んだことや感じたことなどを発表しあつた。

続いて行われた懇話会では、「探検隊、第1～5回に参加したメンバーらとも交流。それぞれの自己紹介や近況報告、自分が参加した際の体験談、今回のレポートの感想などについて話が弾んだ。



各々がまとめた体験レポートを発表

質問に答えるメンバーの表情も真剣